

また、現在、埼玉県と共同で整備を進めている若小玉地区産業団地整備事業については、3年後の分譲開始を目指し、エントリー企業の募集を行い、平成31年度からは土地の造成工事を開始することとしており、雇用の創出と定住人口の増加を加速させる取り組みになるものと期待しています。

次に、特色ある教育の推進のための施策として、引き続き少人数学級編制事業や学校ICT先進モデル校におけるタブレット端末の活用事業、「足袋のまち行田」活性化プロジェクトと連携したマイ足袋製作体験事業など、行田ならではの特色ある教育を展開し、未来の行田を担う人材を育成していきます。

英語教育の面では、小学校の英語教科化を見据えて、全ての英語活動及び英語授業に外国語指導手を配置できるよう2名の増員を行うとともに、夏休み期間中に外国語指導手をイングリッシュサポートターとして活用し、中学生を対象に英語検定等の対策指導を行います。

また、本市においては、これまで学力向上のためのパワーアップサポーター、特別支援学級等で生活の補助を行うきらきらサポーターなど、さまざまな補助員や指導員の配置を行っています。また、新たに全小・中学校に図書室ボランティアを配置することにより、児童・生徒の読書活動を支援し、さらなる学習環境の向上を図ります。

次に、子育て環境の充実のための施策として、本年度から18歳までに拡大した子ども医療費の支給や子育て包括支援センターによる妊娠、出産から子育てまでのワンストップ支援の継続に加え、新たに保育コンシェルジュを配置して、保育施設や保育サービスに関するきめ細やかな相談や情報提供を行うとともに、本年秋の開設を目指し、西小学校に学童保育室を増設することで、子どもたちの健やかな成長と子育て世帯への支援の充実を図ります。

また、子育て世帯定住促進奨励金については、市内在住者の中古住宅取得を支援する新たな奨励金を加えた上で、

事業期間を延長し、引き続き子育て世帯の定住促進を図ります。

このほか、移住・定住プロジェクトでは、大手検索サイトを活用して本市の魅力を広く発信するとともに、移住・定住コンシェルジュの配置によりきめ細やかな相談対応を行うほか、新たに移住・定住専用ポータルサイトの作成、移住者交流会や移住就職相談会の開催など事業内容を強化し、本市への移住・定住の促進を積極的に図ります。

#### ●「安心安全の確保」

災害や日常生活を営む上での不安を払拭し、安全な日常生活をさらに確かなものとするため、ソフトとハードの両面において、安心安全を確保するための事業を展開していきます。

まず、地域づくりの推進のための施策として、いきいき元気サポーターを活用した安心生活創造事業を通じて、高齢者や障害者の方々が安心して暮らしていくための地域における支え合いの体制づくりのほか、市民活動サポートセンターを拠点としたNPO団

体等との協働のまちづくりを推進します。

また、交通弱者の移動手段を確保するため、循環バスやデマンドタクシーの運行をはじめ、運転免許証自主返納者へのタクシー券の交付や生活路線バス存続のための運行支援を通じて、地域交通の利便性を確保します。

次に、適切なインフラ整備のための施策として、各種インフラの計画的な維持管理や大雨などによる浸水被害を防ぐための出水対策事業を継続するとともに、橋りょう長寿命化計画に基づく橋りょう修繕工事や酒巻導水路への橋りょう新設工事、荒木須加幹線道路整備事業における橋りょう架け替え工事を実施し、都市インフラの強化整備を計画的に進め、市民生活の安心安全を確保します。

次に、防災対策の強化のための施策として、小学校5校の屋内運動場や総合体育館及び教育文化センターにおいて、つり天井や窓ガラスなどの非構造部材の耐震改修工事を実施するほか、洪水ハザードマップ改訂版の全戸配布、避難

所の防災備蓄倉庫の整備や消防車両の更新を計画的に進め、さらなる防災・減災体制の強化を図ります。

また、新たな取り組みとして学校施設長寿命化計画を策定し、今後の施設の適切な維持管理を図るとともに、市内主要駅に防犯カメラを設置し、事故や事件の防止対策にも取り組みます。

#### ●「魅力あるまちの創出」

65歳以上の人口が3割を超える本市においては、元気な高齢者が生き生きと活躍できるまちづくりを進めるとともに、豊富な歴史文化遺産を最大限に生かした行田ならではの魅力あふれるまちづくりを積極的に推進します。

まず、健康づくりの推進のための施策として、市民けんこう大学の開催や健康づくりチャレンジポイント事業、禁煙チャレンジ応援プラン助成事業により健康意識の向上を図り、市民の健康づくり活動を支援します。

また、各種がん検診や薬局を拠点とした糖尿病の検体測定など、病気の早期発見のための事業も引き続き実施しま